



中野区議会議員●無所属

# 佐藤ひろこ

# うさぎだより

[事務所] 〒164-0001 中野区中野1-33-9 TEL/FAX. 3368-9107 [区議会] 〒164-0001 中野区中野4-8-1 無所属控室 TEL. 3228-8874  
http://homepage2.nifty.com/usagidayori/ mail: usagidayori@hotmail.com 編集発行:住民自治をすすめる政策研究会



新宿区の元小学校を活用した  
芸能の拠点「芸能花伝舎」を見学

新しい年をいかがお  
過ごしですか。  
宙に浮いた年金問題  
も、防衛省を取り巻く  
疑惑も解決されないま  
まに年をこしました。  
薬害肝炎被害者に対し  
てはようやく議員立法  
で一定の救済策がとら  
れることになりました。政治の役割の重要性をあらためて  
強く感じたところです。

地球温暖化防止と格差社会の解消は、これからの政治の  
大きなテーマです。みんなで作り上げていく政治が、希望  
を生み出すことができると思います。

中野区では今年から施設の再配置が具体的に動き出しま  
す。四月に新しく統合された小・中学校が生まれ、子ども  
家庭支援センターが地域に開設されます。子ども達の育ち  
を支え、だれもが安心して暮らせる地域社会を、みんな  
でつくっていくために、力を合わせましょう。  
今年もよろしく願いいたします。

## 年をとっても 障がいがあっても 住み続けられる住宅を

― 第4回定例会 本会議質問 ―

車いす利用の人が障がい者  
用福祉住宅に入居できなかつ  
た。理由は介護が必要だから。  
特養の入所をすすめられたそ  
うだ。バリアフリー住宅に住め  
れば、ホームヘルプを受けなが  
ら地域で暮らせるのに。

長岡市では、介護が必要な人  
が入居できる住宅がある。  
(2面に記事)

佐藤 介護が必要な高齢者も  
入居できるように、長岡市によ  
うな、介護事業者と住宅会社が  
共同でつくる高齢者住宅を検  
討してはどうか。  
区長 24時間型のホームヘル  
プやショートステイなど在宅  
支援のサービスを地域に普及  
することがまず大事だ。  
(住宅が必要だと質問している  
のに、答弁がすれ違っている。)

## 高齢者の住み替えの 支援を

佐藤 中野区は住み替え支援  
のために、家賃債務保証料の助  
成等を行う「居住安定支援事  
業」をはじめたが成果は? 高齢  
者優良賃貸住宅への住み替え  
支援や、低所得者への家賃補助  
策についての考えは。  
区長 実績は上がっていない。  
原因と対策を検討している。高  
齢者世帯への家賃補助の実施  
はむずかしいが、安定的な居住  
に向けてのさまざまな施策の  
推進が必要。

佐藤 来年度の住宅マスター  
プランの改定では、高齢者等の  
住宅施策について、どのように  
検討するのか。  
区長 ファミリー世帯や高齢  
者向け住宅の供給にあたって、  
民間住宅の誘導策を示し、多様  
な世代が暮らせる良質な住宅  
ストックの形成をめざしたい。

### 主な記事案内

- 2面 ・多文化共生の地域社会を
- ・介護が必要でも住める住宅
- ・障がい児の学童クラブ送迎を
- 3面 ・廃止は困る! 高齢者会館入浴事業
- ・プラスチックの資源回収先は
- 4面 ・ホームページの日記から
- ・佐藤ひろこの活動日誌から

### これからの中野区政

お話し 田中大輔 中野区長

4月13日(日)  
PM2:00~4:00

中野区議会第1委員会室  
区役所4階サンブラ側の入口から

### 秘書から見た国会の内側

お話し 川田龍平 参議院議員秘書  
宮部 彰さん

3月20日(木・休日)  
PM2:00~4:00

男女共同参画センター  
2階研修室(中野駅南口4分)

主催:住民自治をすすめる政策研究会



■薬害肝炎被害者全員の一律  
救済の政治決断を訴える。  
首相官邸前のリレートークで、  
川田龍平参議院議員とともに。

## 国籍などの違いを越えて共に生きる 多文化共生の地域社会を

### 外国から来た子ども達 への日本語学習支援を

**佐藤** 中野区国際交流協会主催の「夏休み子ども日本語クラス」修了式での、約40人の子ども達の日本語発表会に感動した。子ども達に日本語を教えているのは、国際交流協会のポ

ランティアさん達。国際交流協会が行った「日本語ポランティアスキルアップ連続講座」を時々聴講した。最終回の講師は中野区の小中学校の校長先生方で、区の課題についてお話をうかがえた。

子ども達は、教科の授業についていけないとなると、進学、就

職などにも支障をきたし、社会から取り残されていく。区の通訳派遣などは時間が不十分。さらなる日本語学習の支援を行い、学校現場からの切実な要望に早急に答えるべきだ。

**教育長** 日本語教育の支援の充実は必要だ。現在区が行っている日本語適応指導教室や通訳派遣など、国際交流協会との連携を含めて、見直しの検討をはじめたところだ。

「来年度、通訳派遣時間数が増やされる予定。」

### 多文化共生の 地域づくりを

**佐藤** 中野区では、外国人登録者数は百万国にわたり約一万人。定住する人も増えてきている。国籍や民族の異なる人々が、文化的違いを認め合い、共に生きる、多文化共生の地域づくりが必要だ。

生活支援の相談窓口の設置、子育て福祉の情報提供など、各分野における課題を検討し、多文化共生の指針や計画を策定してはどうか。

**区長** 多様な言語での行政サービスを展開していくことが、具体的に今後重要になってくる。現在区では国際化推進施策の再構築を検討している。多文化共生社会の実現を目指していきたい。

### 佐藤ひろこが所属する 厚生委員会から

障がいのある子どもに学童クラブの送迎サービスを

ポランティアセンターが出している「そよかぜ通信」には、学校から学童クラブまで障がいのある子どもに付き添うポランティアの募集が、毎月何件も載る。しかし、ポランティア

は少ない。区に送迎サービスの検討を要望してきた。来年度、小中学校の通学介助も含め、実施される予定だ。

精神障害者社会復帰センターなど民間委託先が決定

精神障害者社会復帰センターは社会福祉法人東京二二に、精神障害者地域生活支援センターはNPO法人リトルポケットに、4月から委託される。どちらも実績のある法人。より良いサービスを期待したい。

江古田の森施設の運営状況報告される

区民から要望の高い高齢者や障がい者のショートステイがまだ始まっていない。職員の確保と定着が緊急課題であるとの報告。区も責任を持って、支援していく必要がある。

母子生活支援施設的设计案示される

要望していたトワイライトステイ(夜間一時保育)やショートステイ(一時宿泊)の部屋も用意される。障がいのある人にも対応できるようにバリアフリー化も必要だ。

## 介護が必要でも安心して住める住宅は可能

新潟県長岡市にある高齢者総合ケアセンター「こぶし園」を視察。社会福祉法人の小山施設長のお話に目からウロコだった。

小山氏は、「住み慣れた地域の人のつながりが大切。特養の機能を分解すれば、住まいと、二食の食事サービスと、24時間のケアサービスの提供である。バリアフリーの住宅をつくり、必要なサービスを運べば、住み慣れた地域で暮らせるようにできる。」という。

その考えのもと、24時間のホームヘルプサービスや三



サポートセンター美沢の前で「こぶし園」の小山施設長と



食毎日の配食サービスやデイサービスなどを行う、コンビ二型やネットワーク型のサポートセンターを、長岡市中に数多く展開。

また、バリアフリー住宅を建設する住宅会社と協働で、24時間365日ケアサービス付の高齢者住宅も実現。その構想を支援するため、長岡市は補助金を出して、安い家賃で要介護3〜5の高齢者が住める高齢者住宅を整備していく計画だ。

24時間のケアサービス付のバリアフリー住宅は、高齢化を迎える私たちの街にもこれから必要な政策だ。

## 廃止は困る！ 高齢者会館等の入浴事業

11月16日、来年度予算で区が検討している主な取り組みについて、厚生委員会に報告された。「高齢者会館等の入浴事業の廃止」について、「全て廃止は

困る」と厳しく質問した。

一日平均7.5人と利用者が少なくなり、ふれあい入浴の役割も終わったので廃止したいと区の説明。家にお風呂がない人は、近くのお風呂屋さんかデイサービスの利用をと担当課長は言う。しかし、中野一丁目周辺はお風呂屋さんがなくなり、さくら館のお風呂が廃止にな

ると、困るお年寄りがいる。介護保険も厳しくなると、要介護判定でないとデイサービスを利用しにくい。お風呂に入れなくなるお年寄りをどうするのか、なんらかの方法でお風呂を利用できるようにするべきだと主張した。対応策ができるまで入浴事業は継続することになった。

が、またばらされて、均一できれいなプラスチックとそうでないのが、人の手により仕分けされる。

## 「プラスチック製の容器包装」 資源回収の行方を追っかけました

地球温暖化防止戦略の一つとして、中野区は、プラスチック製容器包装の資源回収を、今年区内全域で行う。「回収した先はどうなっているのだろうか」という区民の方々の疑問から「追っかけツアー」を企画した。

ヤーで2階に運ばれる。



その日、中野区から運び込まれたプラスチック製容器包装のトコンベ

1枚目の写真は、戸部商事に



2枚目の写真は、狭い2階の仕分け場。6人くらいの人達が、プラスチック製容器包

装ではないものを、手作業で選別しはじめている。コンベアの上をどんどん流れるものを見分けるのは、大変な仕事だ。3枚目の写真は、はじかれた、中野区から持ち込まれた不燃残渣(ごんさ)プラスチック製容器包装以外のもの。次の便で、中野区へ持ち帰る。他の



区に比べて、中野区の不燃残渣は少なく、区民の仕分けが良くできているそう



4枚目の写真は、選別され、圧縮されたプラスチック製容器包装の四角い大きな固まり。中野区のプラスチック製容器包装の



5枚目の写真の私の後ろは、分けられたきれいなプラスチックを溶かして、棒状の固まりにする機械。これがマンホールの蓋などの原材料になる。それ以外のプラスチックは、また四角い固まりに梱包され、固形燃料にするために別の工場に運ばれる。中野区から回収されたプラスチック製容器包装の、約半分がいろいろな資材に加工され、約半分が固形燃料になって燃やされる。

いち早くプラスチック製容器包装の資源化に取り組んだ中野区は、今年さらに資源化をすすめる。しかし、多くの区が、今年からプラスチック製容器包装を焼却する。資源化する受け入れ工場が不足しているからだ。資源化の受け皿には限度がある。プラスチック利用そのものを減らす必要がある。

## 佐藤ひろこの収支報告

2007年11月～12月

	11月	12月	期末手当
報酬	647,000	647,000	1,547,947
費用弁償	39,000	15,000	
税金	78,380	-72,338	257,745
年金・保険	160,530	160,530	116,025
活動費	77,400	77,658	
積み立て	39,000	3,000	
残	¥330,690	¥493,150	¥1,174,177

\*議会に出席すると1日につき3,000円の費用弁償がつく。本来ならなくすべきだ。区に返すことは法的にできないので積み立て、区外の団体に寄付をしている。今回は被災障害者を支援する「ゆめ・風基金」へ寄付。

中野ハンディキャブ  
運転ボランティア募集  
福祉車両による移送サービスを行っています。  
TEL 5318-5899  
(火・木・日 15時)



地域活動をお手伝い

# 佐藤ひろこの活動日誌から

## 10月

- 28 東部運動会／花と緑の祭典
- 29 厚生委員会視察・京都市こどもみらい館
- 30 厚生委員会視察・しみんふくし滋賀  
視覚障害者議員の会交流会

## 11月

- 2 友愛クラブと懇談会／谷戸小研究発表会
- 3 軽可搬消火ポンプ操法大会
- 5 「国立重度知的障害者総合施設のぞみの園」視察
- 6 高齢者総合ケアセンター「こぶし園」視察
- 7 永住外国人に地方参政権全国大会／虹と緑政策研究会
- 10 「ノルジャ」ともに生きようコンサート
- 12 住民自治をすすめる会 区議会報告・チェコで暮らして
- 13 新宿区花伝舎視察／東京大学附属中西側道路開通式  
日本語ボランティアスキルアップ講座
- 14 城山公園おそうし隊／行政評価フォーラム
- 15 薬物乱用防止中野地区大会
- 16 厚生委員会／映画鑑賞「終わりはければすべてよし」
- 17 谷戸小展覧会／ごみ減量シンポジウム
- 20 補正予算内示／議会質問提出
- 24 高根町会生き生き高齢者のつどい
- 25 障害者防災委員会講演会
- 26 町会連合会と懇談会／中野3丁目まちづくり意見交換会
- 27 28本会議
- 29 本会議佐藤ひろこ質問／「日本の社会保障の将来」講演会
- 30 市町村職員地域福祉セミナー／社協病後児保育取材  
DV根絶のためのコンサート

## 12月

- 1 ベビーサロン中野クリスマス会／ユニークダンス  
障害者自立支援法中野区職員の説明と意見交換会
- 2 障害者政策研究全国集会
- 3~5 厚生委員会
- 6 コーラス「さくら会」／防災まちづくり特別委員会
- 10 本会議／谷戸運動公園工事説明会
- 11 中野定住外国人問題を考える会(タッチの会)
- 12 プラスティック製容器包装資源回収追っかけツアー
- 16 「不都合な真実」上映会
- 18 中野駅前トーク／障がい者防災イベント街頭宣伝
- 19 障害福祉課と意見交換会  
薬害肝炎被害者全員救済を求め首相官邸前行動
- 20 DV問題でできることからの会
- 21 東部ボランティアコーナー昼食会／東中野駅前トーク
- 22 高速中央環状線開通式
- 23 防災を考える障がい者とボランティアの交流会
- 24 ももそのデイクラブ
- 25 虹と緑関東ブロック定例会

## 1月

- 3 路上生活者越冬炊き出しボランティア
- 4 中野区役所新年賀詞交歓会
- 7 ももそのデイクラブ／はなみずきの会
- 8 中野1丁目町会新年賀詞交歓会



11月10日

### ノルジャとともに生きよう コンサート

ノルジャはハンゲル語で「あそぼう」という意味。地域の人たちがつくる「さくら館運営協議会」が主催して、韓国・朝鮮の伝統音楽と舞踊に

よるコンサートが行われた。世代を超えてたくさんの方が集まり、優雅な舞踏や激しいかねや太鼓の音が響きあうサムルノリを楽しんだ。私は、会場づくりや出演者の方々のお昼ごはんの用意などをお手伝い。

12月23日

### 防災を考える障がい者と ボランティアの交流会

車椅子の使い方、目の見えない人の誘導の仕方、耳の聞こえない人とのコミュニケーション

百人以上の人の参加で、勤労福祉会館の多目的ホールはいっぱいだった。知的障がいの人は強引に手を引っ張って誘導すると、かえって怖がってパニックになるので、やさしく対応すること。目の見えない人の誘導では、階段ですよとか声かけを行なうこと。耳の聞こえない



シヨンの方法、知的障がいの人への接し方を、パントマイムや手品、バンドの歌を楽しみながら学ぶ集い。私も障害者防災委員会の一員として準備にかかわった。

1月3日

### 炊き出しボランティア

南池袋公園での炊き出し活動に参加。立教大学大学院のゼミ活動での出会いから、恒例になったお正月の甘酒ボランティア。厳寒の路上で暮らす人達にとって、炊き出しのご飯と甘酒は、体が暖まる。ボランティアの医師達



い人へのジェスチャーなど、さまざまな手助けの仕方を学ぶことができた。

による医療相談会も開かれている。この活動を支えているのが、TENOHASHIというボランティア団体。この日も、百人以上の人が炊き出しの列にならんだ。はじめてボランティアに参加した人の文章から。

「それまでホームレス支援という甘やかした。でも実際に関わってみると、極寒の中の「暖かい」、数日食べていない人の「おいしい」、誰からも見離されたらと思うていた人の「ありがとう」。私の心にストリートに響いてきた。」

政治が解決しなければならぬ基本だと思つた。中野区では仕事やアパート入居の支援を行い、路上生活の人たちは大幅に減つた。しかし、まだ路上で暮らす人はいる。

だれもが暖かい家で安心して暮らせるようにすることが、福祉の基本的な役割です。ほんとうに暖かい政治の実現に向けて、今年も取り組んでいきます。

● 傍聴してね！ ●

◆ 次の議会は ◆

2月15日(金)～2月21日(金)  
陳情/切は2月6日(水)